

## 腸溶性カプセル化ビフィズス菌による 血液透析患者の血清リン値低下効果を確認

第14回腸内細菌学会(日時:2010年6月17日~18日)  
大会長:浅田雅宣[森下仁丹(株)] 会場:京都大学百周年時計台記念館

森下仁丹株式会社(本社:大阪市中央区/代表取締役社長:駒村純一)は、長年に渡るビフィズス菌の研究をさらに深めるべく、たゆまぬ努力を続けております。

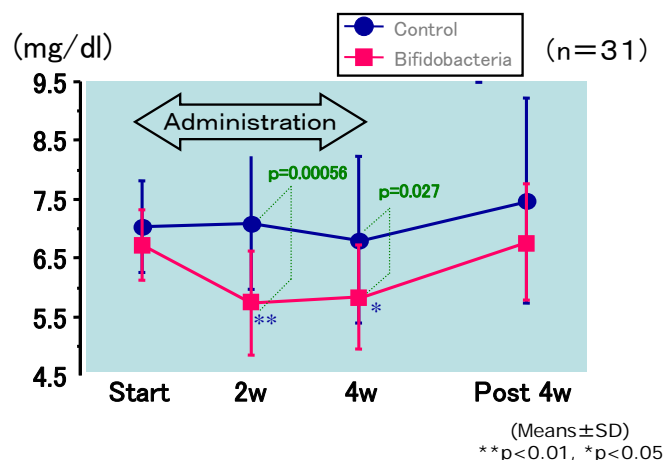
今回、透析患者に腸溶性カプセル化ビフィズス菌製剤を摂取させることによるリン値低下効果を確認しましたので、第14回腸内細菌学会(2010年6月17日(木)~18日(金)、京都大学百周年時計台記念館)にて発表致しました。また、当学会は、関西(京都)で初めて開催され、大会長を当社のバイオファーマ研究所 所長浅田雅宣が務めました。

### 【発表の概要】

森下仁丹株式会社は、平成日高クリニック外来血液透析患者のうち、透析前の血清リン値が6.0mg/dL以上の31名を選び、そのうちの15名にカプセル化した生きたビフィズス菌を4週間摂取させたところ、血清リン値は摂取前より有意に低下したことを見出しました。また、血清リン値5.5mg/dL以上の患者を対象にして摂取菌数・方法の試験をしたところ、毎日、就寝前に摂取することで、血清リン値に有意な低下が認められました。

### 《試験方法》

- ・被験者:透析前の血清リン値が6.0mg/dL以上の31名
- ・被験食品:カプセル化ビフィズス菌20億cfu/日の摂取群15名、非摂取群16名の2群



### 【本件に関するお問い合わせは】

森下仁丹株式会社 広告・宣伝グループ 磯部・大北 TEL:06-6761-1134 FAX:06-6761-8108  
共同PR株式会社 担当:長尾・林 TEL:03-3571-5275 FAX:03-3574-1005



◆発表演題・発表者

「腸溶性カプセル化ビフィズス菌による血液透析患者の血清リン値低下効果」

発表者: 金谷 忠<sup>1</sup>, 島田美樹子<sup>2</sup>, 小川哲也<sup>3</sup>, 小崎敏雄<sup>1</sup> 浅田雅宣<sup>1</sup>

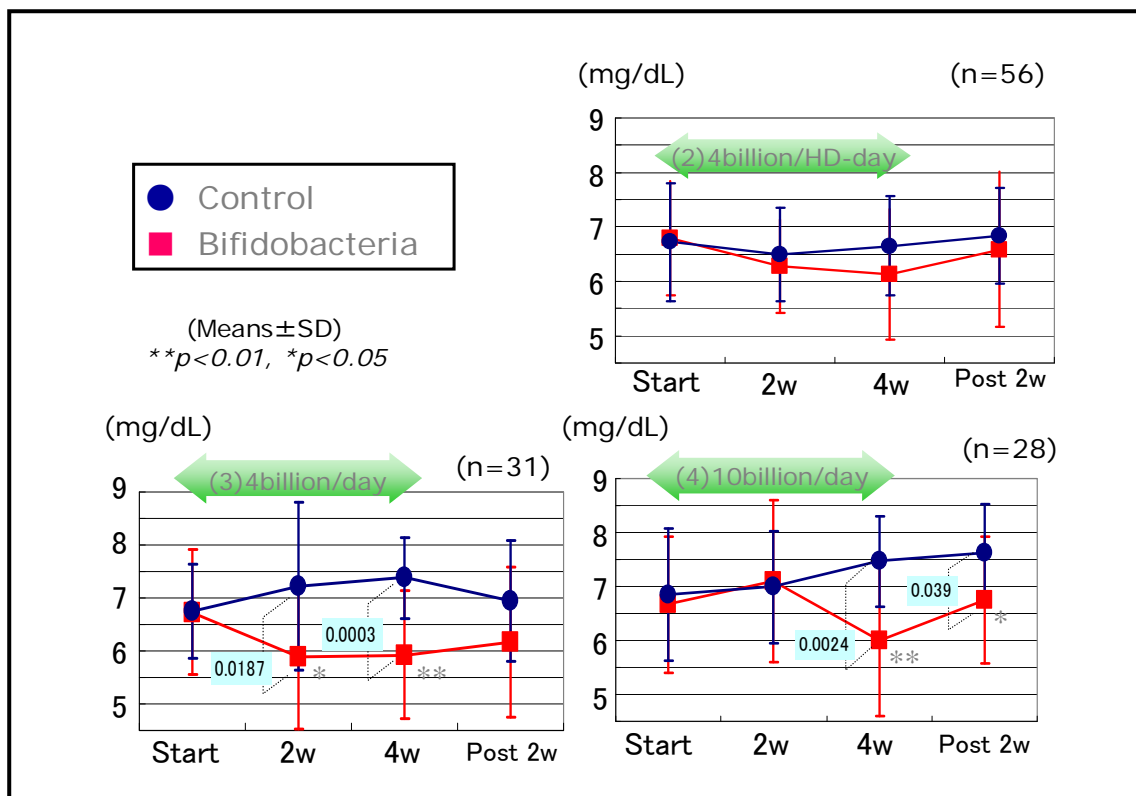
(<sup>1</sup> 森下仁丹株式会社 研究開発本部, <sup>2</sup> 平成日高クリニック, <sup>3</sup> 東京女子医大第4内科)

◆研究の目的

血液透析療法は、慢性腎不全末期に腎臓の代替として行う治療です。透析患者は、治療により水分摂取を制限されることから、便秘になりがちであったが、生きたビフィズス菌の腸溶性シームレスカプセル製剤が便秘の改善を促すことが確認できました。さらに透析患者は、血清リン値の上昇が原因となりリン酸カルシウムが血管に沈着し、動脈硬化、多臓器不全を起こすため、血清リン値の管理が特に重要となっています。今回の研究では、透析患者におけるカプセル化ビフィズス菌製剤の摂取による血清リン値低下作用を明らかにすることを目的としました。

◆結果・考察

- ①腸溶性カプセル化ビフィズス菌の摂取群では、血清リン値が摂取前  $6.69 \pm 0.60 \text{ mg/dL}$  から2週間後  $5.71 \pm 0.88 \text{ mg/dL}$  ( $p < 0.001$ )、4週間後  $5.80 \pm 0.89 \text{ mg/dL}$  ( $p < 0.01$ )と有意に低下した。
- ②4週間の摂取期間終了からさらに4週間後には、 $6.73 \pm 0.98 \text{ mg/dL}$  に上昇したことから、本ビフィズス菌製剤摂取によるリン値低下効果が確認された。
- ③血清リン値  $5.5 \text{ mg/dL}$  以上の患者を対象とした摂取菌数・方法による検証では、透析時の週3回の摂取では有意なリン値の低下が認められなかったが、毎日就寝前の40億 cfu 投与、毎日就寝前の100億 cfu 投与の両群では、血清リン値に有意な低下が認められた。 ( $p=0.0457$ ,  $p=0.0382$ )
- ④リン値低下のメカニズムには、摂取ビフィズス菌が小腸下部から大腸内での増殖時に腸内の食物中の遊離リンを栄養素として吸収し、ヒトの腸壁からのリンの吸収量が減少するためであると考えられるが、それを確認することが、今後の課題である。



### 【腸内細菌学会】

腸内細菌学会は、財団法人日本ビフィズス菌センターが主催する事業の一環で、年に1回、2日間に渡り開催されています。ビフィズス菌を中心とした腸内細菌と人の健康とのかかわりあいに関する先駆的、独創的な研究の推進を目的としており、今年で第14回目を迎えます。メインテーマとして「腸内細菌研究の新たな飛翔—健康増進と疾病予防を目指して—」を掲げています。今回の学会大会長は、森下仁丹(株)バイオファーマ研究所 浅田雅宣 所長が務めます。